

枚方中国語を学ぶ会だより

2017年4月号
枚方中国語を学ぶ会

中国料理を作る会



**みんなで
作って、食べて、
楽しんで**

介绍一下我的学习方法

初級班 K・R

私が中国語を勉強し始めた理由は、台湾への旅行の計画があったからです。

学校でも中国語の授業を受けていましたが、発音を中心にもっと深く勉強し、現地で少しでも使えたらいいなと思って始めました（簡体字と繁体字の違いがあることは認識していましたが、汎用性が高い方が良くないと大して気にしませんでした）。

勉強方法は、学校の試験勉強そのままなのですが、①教科書の例文を書き写す、②教科書に付属しているCDを携帯にインポートして移動時間などに聴く、③CDの音声を聞いて和訳しながらディクテーションする、④CDのあとに続いて発音する、といったことを行なっています。

これにより、まだ不完全ですが声調の判別などが少しずつできるようになってきました。今後は、語彙を増やす勉強をしたいと思います。（作成時は入門班でした）

2月5日（日）午前10時から、枚方市民会館で、春節の恒例行事、「中国料理を作る会」が行われ、会員だけでなく枚方日中友好協会からの参加もあり、会場となった料理室は熱気に包まれました。

今年の各班の料理は入門班恒例の水餃子を始め、初級班の「ほうれん草とピーナッツの和え物」、中級班の「白菜ときくらげと干豆腐の炒め物」「小豆あんの春巻き」、上級Ⅰ班の「牛肉のオイスターソース炒め」、上級Ⅱ班の「羊肉酸菜と春雨のスープ」と、どれも素晴らしい出来映えでした。

午後からは会場を会議室に移して、作った料理をたべながらの懇親会。特に特別参加の入門班・孫老師のお母さん指導の「東北餃子」は、参加者が口をそろえて「今まで食べたことがない」というほどの美味しさでした。

懇親会での各班からの出し物、今回は初級班、中級班、上級Ⅱ班が、それぞれ工夫を凝らした中国や中国語に関するクイズを出題。楽しみながら学習にもなりました。

そして、最後に今西事務局長の「一本締め」で、楽しかった1日を終わりました。

西川会長の 中国語余話⑦

挨拶語を考えるその3

今回も挨拶に関わることについてです。

手作り料理が出されて、「美味しそう！」といただきますよね。これを中国語で言うのがまた難しいようです。直訳して、「好像好吃」では「まるで美味しくみえる」となり、どうみても変ですね。

そこで、「動詞+起来（～してみる）」を使って、「看起来很好吃」はどうかと思い、中国人の先生に聞いてみましたが、あまり誉め言葉にはならないようです。理由は、「看起来很好吃」（見てみると美味しそう）は言外に「吃起来不好吃」（食べてみると不味い）の意味を連想させてしまうので、ここは「一定很好吃」の方がいいのでは、というアドバイスでした。複雑ですね。